

自然環境の変化と災害

黒根港と半鐘森に巨大な避難タワーが完成し、10月4日、住民にお披露目された。平坦地が多い新島村では東南海地震による巨大津波が想定され久しいが、住民の安心安全を守るために重要な施設。建築にご尽力いただいた東京都や村の関係者に心から敬意を表する。

新島村は平成12年の大震災以来、大きな災害は発生していなかつたが、昨年9月、10月に来た台風15号19号では、住民の皆様方がかつて経験したことのない猛烈な風が関東地方をはじめ伊豆諸島を襲い、新島村も多くの家屋が破壊されるなど日常生活を脅かす大きな災害となつた。

今年もつい先日、台風14号が伊豆諸島に接近し、心配したが大きな被害はなかつた。「複雑な動き



▲台風により崩落した羽伏浦海岸の道路

をする台風」に、住民の皆様方は不安な思いをなさつたのではないだろうか。

7月の読売新聞に「東京に接近する台風の数が過去40年間の分析で約1.5倍に増えた」また「東京では中心気圧が980ヘクト・パスカルより低い、勢力の強い、台風が接近するケースが2.5倍となつた。海面水温の上昇や大気中の水蒸気量の増加などが原因と考えられる」という、気象研究所が発表した記事が載っていた。

議長 前田邦弘

新島近海の海面水温は、今年は30度を超え異常に高い日が続いている。漁、サザエビや天草は、イセエビ等の貝類が不漁となり、水産業に大きな影響を与えている。海面水温が僅か1度か2度上昇しただけで巨大な台風を発生させし、海の生態系に影響を及ぼし、島の基幹産業に壊滅的な被害を与える。自然環境の変化が、私たちの生活を否応なしに変えてしまうのか？

委員会より
各委員会の活動について
ご紹介します。

【総務常任委員会】

議会改革の一環として、タブレット端末の導入についての協議を進めました。目的は印刷・製本代の削減であり、隨時、議場でのカラー画像を用いた情報共有や、行政や各団体と足並みを揃えたテレビ会議の利用も考えています。審議の過程では「まだ議論が煮詰まっていない」、「手元で参照できる端末がないと、全体の導人の是非を論じられないで一部先行して欲しい」、「議員全員が一致団結して導入に向かうべき」などの意見が出されました。導入にあたっては検証チームが端末や使用するアプリの選定を行った上で、他の議員に寄り添つて共に操作を習熟していく過程を設け、しばらくは紙と電子データを併用していく予定です。

【経済常任委員会】

式根島高齢者福祉拠点施設について民生課長から説明を受けました。工事進捗として、台風災害・コロナの影響で業者が来られない・資材が届かないなどの影響を受けつつも、進めている状況を確認。サービス開始は来年4月で、週5日の訪問介護を行いつつ週2日のデイサービスを追加する方針で人員確保を含めて話し合いを進めています。

(経済常任委員長・青沼喜一)